

## 美の国カレッジ「あきたの先人に学ぶ」スタート

美の国カレッジあきた学総合コース「あきたの先人に学ぶ」が9月3日（土）に始まりました。これはあきたの豊かな産業や文化の礎を築いた先人の生き方と業績にスポットを当てた全8回の講座です。

第1回のテーマは「江戸中期の医者・思想家 安藤昌益 ～徹底した平等思想を唱える～」で、大館市文化財保護協会の清野宏隆事務局長を講師に迎えての講座でした。

清野事務局長は「安藤昌益は久しく人々に知られていなかったが、明治に入ってから狩野亨吉によって発見され、その著書のあまりに激しい主張に、表立った研究ができなかった。」と話されました。

身分・階級差別を否定し、「全ての者が労働に携わるべき」と主張した安藤昌益の業績と生き方について、豊富な資料を提示しながら丁寧にわかりやすく話された講座に、受講者からは「偉大な人物であったことを再認識しました。今後、安藤昌益を研究する上で大変参考になりました。」「細かい部分まで整理された資料がわかりやすかった。」等の感想が寄せられました。



資料を手に説明される講師の清野事務局長

## 美の国カレッジ「THE スペシャリスト」スタート



ノーザンハピネッツへの情熱を語る佐野社長

美の国カレッジあきた学総合コース「THE スペシャリスト」が9月3日（土）にスタートしました。あきたの元気をどう創るか、県内の各分野で活躍している方々の提言が本講座のキーワードです。

第1回は株式会社サノ・ファーマシーの佐野元彦代表取締役社長を講師に迎え、「スポーツで秋田を元気に！ ～秋田ノーザンハピネッツの挑戦～」というテーマでお話いただきました。

秋田初のプロバスケットボールチーム「秋田ノーザンハピネッツ」誕生の舞台裏について、プロバスケットボールに関わった経緯やチーム創設の背景、bjリーグの概要等を貴重な資料を提示しながらわかりやすく説明されました。

プロスポーツをエンターテイメントとして捉え、老若男女だれもが楽しめる空間の提供や県民に愛される強いチーム作りを進める中で、子どもたちと夢や感動を共有し、秋田のスポーツ文化の創造に貢献したいという思いが受講者に伝わったようで、会場が大きな拍手に包まれました。受講者からは「ノーザンハピネッツにける意気込みがひしひしと伝わってきました。」「ボランティアスタッフの多さに驚きました。」等の感想が寄せられました。

「THE スペシャリスト」は全8回の講座となっています。

## 美の国カレッジ鹿角キャンパススタート

美の国カレッジあきた学地域講座鹿角キャンパスが、9月3日（土）鹿角市交流センターを会場にスタートしました。

開講式のあと、「十和田湖伝説を語る ～伝説の里鹿角～」をテーマに、講師の大館市立釈迦内小学校の五十嵐経校長からお話いただきました。

八郎太郎が十和田湖を作って棲んでいたところに南祖坊があとから来て追い出した話や、八郎湖に住み始めるまでのエピソード、辰子姫とのロマンス等について、ユーモアたっぷりに話されました。

特に、神様が提示した八郎湖に棲む契約年数「十年」に対して、神様の目を盗んで「十」の字に「ノ」を書き足して「千年」に変えて移り棲み、その千年が経過したあたりに干拓事業が始まったエピソードは説得力がありました。



音声を使用して説明する石井教諭

午後からは「鹿角のことば ～秋田県教育委員会『秋田のことば』調査から見えてくるもの～」というテーマで、秋田県立新屋高等学校の石井啓之教諭を講師に進められました。

石井氏は秋田県教育委員会が発行した「秋田のことば」のCD-ROMを使って、「生きた鹿角のことば」を交えながらわかりやすく説明されました。

南部藩領であった鹿角地区では、秋田のことばとはちがった独特の言い回しがあることや、同じ言い回しでも意味合いが微妙にちがっていることを指摘しながら、会場の受講者に質問をするなど、双方向的なやりとりが展開されました。

講座修了後には受講者から昔のことばについての説明があるなど、密度の濃い内容となりました。



八郎太郎伝説について語る五十嵐校長

## 美の国れんけいカレッジ「実践!寄せ植えゼミ（秋）」

秋田県立農業科学館との連携による美の国れんけいカレッジ「実践!寄せ植えゼミ（秋）」が9月16日（金）に県生涯学習センターで開催されました。

今回は冬越しができるストックとピオラを寄せ植えに仕上げていきました。

土作りに関して、講師をつとめた県立農業科学館の信田厚史学芸主事が「粒状の土を敷く際はいかに水はけを良くするかが大事。また、プランターの底を地面に直に置かないことでナメクジの侵入を防ぐことができる。」と話し、参加した19名は真剣にメモをとっていました。

5月に開催された「実践!寄せ植えゼミ（春）」に参加した人も多く、春に完成させた寄せ植えの維持・管理についてさまざまな質問が寄せられ、信田学芸主事はひとつひとつ丁寧に答えていました。寄せ植えは手入れが行き届いていれば来年6月ごろまで楽しめるそうです。



冬越しができる秋の草花の寄せ植え